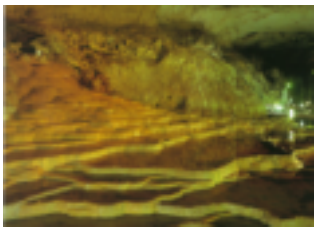
理科だより

発行
平成21年4月30日
編集　RIKADAISUKIMAN

秋吉台続き

秋芳洞（あきよしどう）には、高校生の修学旅行で行ったことがあります。

黄金柱と呼ばれる、大きな石筍



百枚皿

カルスト地形

秋芳洞出口の所に、山口県指定文化財である「遺灰像（ゆいかいぞう）」が祭られていました。奈良時代に、日照りが続き、皆困っていました。するとあるお坊さんが、雨乞いをしたそうです。「私の命を捧げます」とお祈りすると、雨が降り出しました。そのお坊さんは、天との約束を果たすため、増水した川に身を投げてしまったそうです。そのお坊さんの像が祭られていました。

秋吉台には岩石の勉強で訪れたのですが、やはり昔から住んでいる人が居て、生活を営んでいたのだなと思いますし、この洞窟からみると、奈良時代から現在までの時間はほんのわずかなものでしかないのだなと感じました。（今は何でもインターネットで出てきますね。いいのやら、悪いのやら・・・http://odekake.jalan.net/spt_35462aj2200128057.html）

大正堂と景清堂

ここは、話だけ聞いて、すぐに吉田松陰の邸宅見学に入ってしまい、あまり詳しく見学しませんでした。今度行く時には、時間をかけて見たいと思っています。

（参考http://www1.plala.or.jp/CUE/cave_taisyo.html）

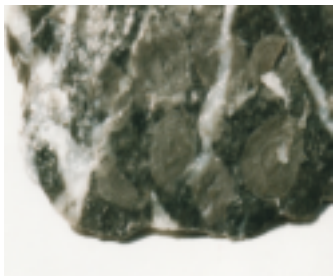
再びフズリナ石灰岩

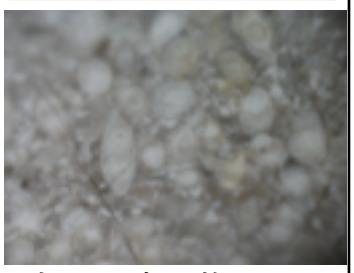
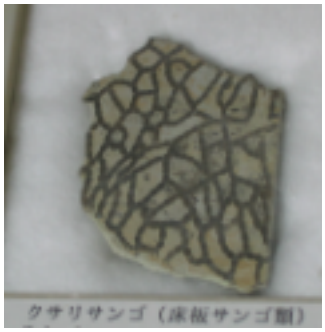
理科だより第７号に少し登場しましたが、あのときのフズリナは、このとき手に入れたものです。遊歩道にある石灰柱に、びっしりとフズリナが張り付いている光景が今でも思い出せます。この地を訪れたとき、まだデジタルカメラがなかったので、写真が撮れなかったことがとても残念です。

案内してくれたタクシーの運転手さんは、日本の首相の事とか、吉田松陰については博士並みに詳しかったのですが、岩石にはさっぱり興味がなく、フズリナのことをスズリナ（誤）と言っていました。なにか書道で使うスズリの石と感違いしていたようです。

今、理科だよりをまとめるために、秋吉台でもらった資料が出てきたので、フズリナについてもう一度触れておきたいと思います。

「フズリナは今から約三億三千万年前から二億二千万年前までの約一億年の間生存していました。有孔虫の仲間に属する単細胞の仲間です。大きさはゴマ粒から大豆くらいですが、一番多いのは米粒ぐらいの大きさのものです。形はつむぎ形をしているものが一番多く、その他円筒形、球型、円盤型などがあります。フズリナは「紡錘虫」とも呼ばれています。秋吉台からは120種以上のものが発見されています。」





上の写真二枚は、フズリナ石灰岩。日暮里の谷中にある、ある店でフズリナ石灰岩が飾ってあり、貴重な化石とありましたが、よく勉強しているなと思いました。